

2010年 学会・研究会情報

1. 日本畜産学会第112回大会

日時：2010年3月28日-30日 於：明治大学駿河台キャンパス

主催：日本畜産学会

一般講演：栄養・飼養・遺伝・生理会場 (Key words ; 肉牛、副産物飼料、自給飼料) から一部を紹介

1. 肥育牛用イネ FN-1 を立ち枯れさせて肥育牛に給与すると肥育成績は？ (広島総技研畜技セ)

イネ FN-1 を出穂後低温不稔で立毛枯死させβカロチン含量を低下させたサイレージを調製し(TDN5.1%)、黒毛和種肥育牛に9~27ヵ月齢までTMR(前期25%, 後期12.5%)給与した。肥育成績は、日増体量0.91kg, 出荷体重808kg, 枝肉重529kg, バラ厚9.17cm, BMS# 7.7, BFS# 3.7, ミオグロビン含量3.97mg/g, 筋肉内脂肪含量44.4%で、イネ FN-1 サイレージ給与で良質肉生産が達成できた。

2. 高糖分飼料イネ「中国飼198号」の消化特性は？ (広島総技研畜技セ・近中四農研)

イネの子実形成を抑制して茎葉と糖分を増加させた新品種飼料イネ「中国飼198号」をラップサイレージ調製し、従来の普及品種「クサノホシ」と消化性などを比較検討した。「中国飼198号」は粗繊維・NDFの消化率およびTDNが有意に高く、第一胃内乾物消失率も高いことが明らかになった。

3. 哺乳子牛にL-カルニチンを給与すると発育は？ (東京農大他)

L-カルニチンはその脂肪酸燃焼効果により人の健康食品として注目を浴びているが、カルニチンを肉用種子牛へ代用乳中に脂肪酸Caと共に150ppm添加給与したところ血中L-カルニチン濃度は高まり、血中中性脂肪濃度が低くなる傾向が認められ、200ppm以下の用量で増体・体高・胸囲などの発育成績が向上する可能性があると思われた。